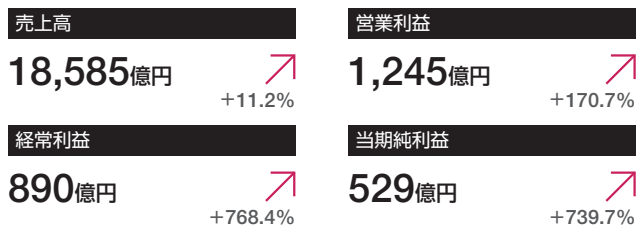


経営成績ならびに財政状態の説明および分析

経営成績に関する説明および分析



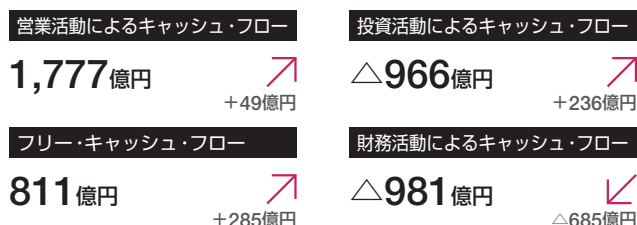
当連結会計年度の我が国経済は、第3四半期に入り景気対策の縮小や円高の影響などにより、回復ペースに一服感がみられたものの、海外経済の改善を背景に、総じて緩やかな回復基調が続きました。また、海外においても、中国で景気は拡大したほか、米国、欧州においても、緩やかながら回復基調が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、国内外における製造業向けの需要が堅調に推移したことなどにより、鋼材やアルミ・銅圧延品の販売数量が、前連結会計年度の水準を上回りました。また、油圧ショベルの販売台数は、中国における需要が拡大したことなどから、前連結会計年度を大きく上回りました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度に比べ1,875億円増収の1兆8,585億円となり、営業利益は、前連結会計年度に比べ785億円増益の1,245億円、経常利益は、前連結会計年度に比べ788億円増益の890億円となりました。また当期純利益は、前連結会計年度に比べ466億円増益の529億円となりました。

	億円		増減率
	2009年度	2010年度	
売上高	16,710	18,585	+11.2%
営業利益	460	1,245	+170.7%
経常利益	102	890	+768.4%
当期純利益	63	529	+739.7%

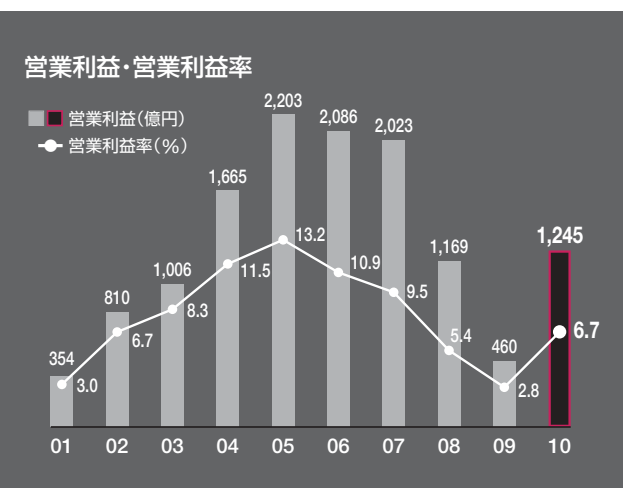
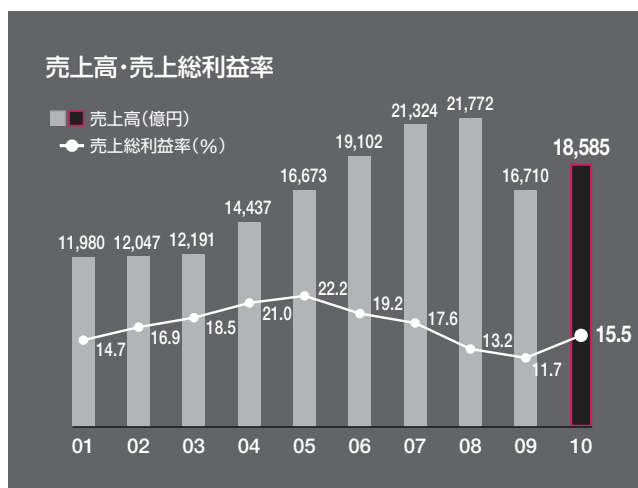
キャッシュ・フローに関する説明および分析



当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、営業活動によるキャッシュ・フローに係る収入が1,777億円、投資活動によるキャッシュ・フローに係る支出が△966億円、財務活動によるキャッシュ・フローに係る支出が△981億円となりました。

以上の結果、換算差額を含めた当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ219億円減少の1,897億円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。



(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前当期純利益が増加した一方で、たな卸資産の増加により運転資金負担が増加したことなどから、当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度並みの1,777億円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形及び無形固定資産の取得による支出が減少したことなどから、当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べて236億円支出が減少し、△966億円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

長期借入れ及び社債の発行による収入が減少したことなどから、当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べて685億円収入が減少し、△981億円となりました。

	億円		
	2009年度	2010年度	増減額
現金及び現金同等物残高	2,116	1,897	△219
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,728	1,777	+49
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,203	△966	+236
財務活動によるキャッシュ・フロー	△296	△981	△685

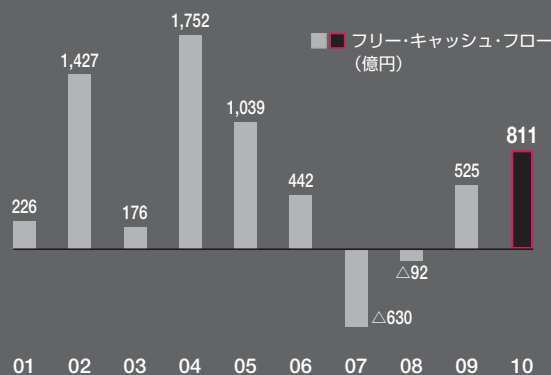
財政状態に関する説明および分析

総資産	純資産
22,315億円 ↘ △0.8%	5,973億円 ↗ +7.2%
自己資本比率	
24.6% ↗ +1.6ポイント	

現金及び預金やたな卸資産が増加したものの、有形固定資産や投資有価証券が減少したことなどから、当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ178億円減少し2兆2,315億円となりました。また、純資産については、利益剰余金が増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ403億円増加し5,973億円となりました。これらの結果、当連結会計年度末の自己資本比率は24.6%となり、前連結会計年度末に比べ1.6ポイント上昇しました。

なお、当連結会計年度末のIPPプロジェクトファイナンスを含む外部負債残高は、前連結会計年度末に比べ796億円減少し、8,454億円となりました。

	億円		
	2009年度	2010年度	増減率
総資産	22,493	22,315	△0.8%
純資産	5,570	5,973	+7.2%
自己資本比率(%)	23.0	24.6	+1.6ポイント
外部負債残高 (IPPプロジェクトを含む)	9,251	8,454	△8.6%

フリー・キャッシュ・フロー**純資産・自己資本比率**